

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105610
法人名	株式会社 アクト企画
事業所名	グループホーム我が家
所在地	松山市鷹子町705-2
自己評価作成日	H24年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○玄関に手づくりのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。 ○利用者と職員との関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。 ○昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。 ○毎年、遠足という事で、遠出をしている。昨年は、伊予市、中山町にて楽しく過ごしました。 ○家庭菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。 ○地域の踊りの先生との交流。 ○面会に来られた方からの繋がりでの交流の広がり。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の静かな環境の中にある事業所で、開設当時から町内会に加入し、回覧板や運営推進会議で地域の行事などの情報を得ている。近所の方とあいさつを交わしたり、みかんをもらう等の交流が行われている。利用者の思いや要望は、センター方式を活用し把握するよう努めている。利用者について気付いたこと等は職員間で話し合う機会を持ち情報を共有している。年2回の火災を想定した避難訓練を実施し、災害についての勉強会を行なう等、防災に対する意識を高めるように努めている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム我が家

(ユニット名)

ユニット1

記入者(管理者)

氏 名

中山 多希史

評価完了日

平成 24 年 2 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の住民の一員である事が実感できるような生活を支援します」という理念をつくっている。常に意識できるように皆の目の届く所、踊り場等に張っており、実践できるよう心がけている。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえ、管理者や職員が話し合って作成した理念を掲げている。理念については職員会で振り返りを行う等、日々実践するよう努めている。地域住民の一員として地域とのつながりを大切に考えている	事業所開設より6年が経過し、現在の理念については一定の達成度が感じられる。管理者を中心に職員全員が参画し、基本理念とケア理念の関連性を考慮しながら理念の見直し等を検討するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会に加入している。地域の文化祭や行事等に参加し地域の一員になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の方に来て頂き、教えてもらったり、舞踊等を披露して頂いたり、交流を深めている。しかし、日常的に地域との付き合いが出来ているかどうかとなるとまだまだである。 (外部評価) 町内会に加入し回覧板等から地域の情報を得ている。また、地域に住んでいる職員や運営推進会議に参加してくれている地域の方からも様々な情報を得ている。近所の方からみかんをもらったり、踊りの先生に来てもらう等、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々へ実践を通じて積み上げている知識を活かす場面が作れていないのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度開催。報告や情報交換にとどまらず、会議 メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向 上に繋がる具体策を検討実践している。	
			(外部評価) 地区民生委員や町内会長、地域包括支援センター職 員、家族代表者、利用者、職員等が参加し、概ね2か 月に1回開催されている。議事録は詳細に記録されて おり、意見交換等も活発に行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会等に参加した り他の研修会等にも参加している。他の担当者とは、 困ったとき等の対応を相談したりして協力関係を築く ように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参 加し、助言をしてもらったり、意見交換を行ってい る。また、地域包括支援センター主催のケアネットや グループホームの交流会等にも積極的に参加し、情報 交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はないが、ユニットを仕切るドアに暗証番 号式ロックがある。課題として、施錠のデメリット等 を十分に伝えていく必要がある。まだまだ、不十分。	
			(外部評価) ユニットの出入り口に暗証番号式のロックがかかるよ うになっている。ロックがあることで安心している家 族への身体拘束の説明が不十分であると管理者は感じ ており、今後の取組みを検討している。利用者に対 しては、見守りを行い外出ができるよう支援に努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に、心理的虐待や言葉の虐待等がないか話し合い、見過ごさないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度があるということについては職員で理解しているが、詳しい理解や活用に至っていないのが現状である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをもとに詳しく説明し、同意を得ている。表面以外の気になる事等も聞き、不安がないように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、運営推進会議等で聞けるようにしている。また、管理者や職員が面会時などに気軽に聞けるような関係作りを行っている。そして、それを出来る限り実現するようにしている。	
			(外部評価) 家族の代表者が運営推進会議に参加しており、意見や要望を言ってくれる。家族からの苦情については、職員間で話し合い結果を家族に伝えるようにしている。また、家族の面会時に意見や要望等を聞き取るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気作りをしている。また、定期的に管理者が全員の個人面談をして話等聞く機会を設けている。 (外部評価) 日々の業務の中で、意見や提案がよく出されている。必要に応じて管理者から代表者に伝えるような仕組みがある。また、管理者による個人面談が随時行われ、職員の思いや意向を把握し意見等を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員がやりがいを持って働けるように、特別休暇を設けたり、参加したい研修等があれば参加できるように職場環境・条件の整備に努めている。また、松山市勤労者福祉サービスに入会したり、勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員のケアを向上させる為に、参加したい研修等があれば参加できるようにしている。また、発表の機会を設ける事により学びの質を高めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会や地域包括支援センター、ケアプラン研究会などが主催する研修会や交流会に参加し、交流をはかる取り組みをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き、不安や求めている事等を受け止めるようにしている。また、スムーズに利用して頂くために、入居までに他の利用者さんとの交流等も出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と話し合い、不安や求めている事を把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話を聞き、必要なサービスへ繋ぐよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 時間を見つけては、利用者の想いを聞き、喜び合い、悩みあう様にしている。心を開いていただけるよう折に触れ話をしよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と本人の架け橋となり得る様、配慮しながらよりよい支援に繋がるよう心配りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前利用していたデイサービスや、馴染みの場所等へ行けるように支援している。また、馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。馴染みの人に手紙を出したり、電話をかけたりする工夫もしている。	
			(外部評価) 利用者が住んでいた自宅に行ったり、お墓参りに行ったり、なじみの場所に行く等の取組みをしている。また、入居の長い利用者同志が仲良くなったり、定期的に訪問してくれる美容師とも新しいなじみの関係になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。職員が利用者の関係を上手に取り持つ事により良好な関係作りが出来るように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者がいれば支援している。また、移り住む事があればケアの工夫や注意点等のノウハウは惜しみなく伝えるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で、思いを探り、意向に沿える様に話し合い検討している。	
			(外部評価) センター方式を取り入れ、さらに工夫をしながら利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、職員は知り得た情報を気付きシートに記録し、職員会で話し合い共有するようにしている。利用者の希望に応じて花見や買い物等にも出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の面会時に話を聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人のできる力、意欲等を向上させる為、声かけ（新聞折や洗濯物の片付け等）をして無気力に陥らない様努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。	
			(外部評価) 居室担当の職員を中心に職員間で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。介護計画に沿って支援した内容は、分かりやすく青色で経過記録に記入している。それをもとに月1回の職員会で評価、見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアのアプローチ、結果、気づき、工夫についてありのままの言葉で上手くいかなかった場合も記述・記録として残し、表現しきれない微妙な言葉や行動については、申し送りで情報の共有、後のケアにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物や通院対応等本人や家族のその時々要望に応えられるよう、柔軟に対応している。囲碁のボランティアの方に来てもらったり、多機能になるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアによる踊り、演奏、囲碁等や、中学生職場体験学習の受け入れ、地域の公民館での行事や運動会等に参加し、豊かな暮らしになるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の意向にそえられるように支援してい る。	
			(外部評価) 家族や利用者が希望する医療機関に家族が付き添って 受診してもらっているが、家族の付き添いが困難な時 には管理者や職員が対応をしている。受診の結果につ いては、家族と職員で情報共有をしている。また、協 力医や歯科医の往診があり、非常勤の看護師も配置し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日バイタルチェックをし記録に残し体調変化、異常に気付い たら早い段階で医療機関に相談、受診し重症化を予防 に努めている。また、医療連携している看護師にも報 告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリー と共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしてい る。病院にも定期的に顔を出し、安心していただける ようにしている。また、早期退院に向けて病院関係者 と話し合い調整して	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医と連携を取り、今後の終末期に向けての 起こり得ること等を家族等と共有している。	
			(外部評価) 家族の理解や支援体制等の条件が整えばターミナルケ アを実施するよう方針を定めている。家族や職員、関 係者で話し合い連携を取りながらターミナルケアを 行った事例がある。重度化については、家族との話し 合いを随時しながら対応するよう検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作っている。定期的に事故発生時などの対応を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練等を行っている。運営推進会議等でもテーマにし、地域の方とどういう連携をとるのか話し合っている。 (外部評価) 年2回の火災を想定した避難訓練を実施している。車いすを使用している利用者が多いため迅速に避難ができるよう、避難経路等の検討をしている。地震災害についての勉強会を行ない、防災に対する意識を高めるようにしている。	運営推進会議で災害についての議題も出されていることから、地震災害に対する非難訓練を地域住民の協力を得ながら行えるよう検討する等、さらなる取組みに期待したい。また、可能な範囲で備蓄を行ったり、災害対策グッズを常備する等の対応を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意するように努めている。定期的に配慮した声かけになっているかなどの確認等をするようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対して、優しく適切に声かけ等の対応ができるよう職員同志で注意し合ったり、職員会で注意を促している。個人情報についても適切に管理するよう努めている。また、トイレや入浴時は人目に触れないよう細心の注意を払い介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出を汲み取る努力をしている。納得した生活を送って頂く為、自己決定の場面を作り支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせつつ、希望に沿った支援が出来るように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。ご自分で洋服を決めていただいたりしている。理美容も本人の望む店に行けるように支援している。お化粧を希望される方には、お手伝いする事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りに何かしら関われるように支援しているが不十分である。食事作りに関わったり、後片付けと一緒にする事により役割や楽しみが共有できるように努めている。	
			(外部評価) 職員が献立を立て、調理を行なっている。食事介助の必要な利用者はほとんどおらず、職員と一緒に会話をしながら楽しく食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) おかずを刻んだり、魚をほぐしたりご飯の量や、水分量等、各々に合わせた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者個々の能力・習慣に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄のリズムを把握している。また、利用者の状態によりリハビリパンツやパッドで対応したり、表情や時間を見ながら誘導する等、排泄で失敗がないよう支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、青汁を飲んで頂いたり、水分を摂る様にしたりと便秘予防・自然排便が出来るように支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。	
			(外部評価) 週に2～3回、入浴ができるよう支援をしている。時間は特に決めておらず、希望に合わせて利用者のペースで入浴ができるよう実施している。入浴の苦手な利用者については、声かけのタイミング等を変えながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて安心したり休息したり眠れるようにしている。また、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。また、誤薬防止の為、声に出して名前の確認を行うようにしている。本人の状態により服薬調整等も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る限りの手伝い等、進んでして下さるよう声かけの支援を行っている。役に立ったと喜びを感じて頂けるように心がけている。台所仕事が好きな人、歌を歌うことが好きな人等その人にあった支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿って、買い物や散歩等戸外に出かけられるよう柔軟に対応するように努めている。以前利用していた施設などを訪れたりし、満足していただけるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて近くのお寺にお参りに行ったり、日常的に近所を散歩している。また、花見や遠足等を定期的に計画し家族にも参加してもらい一緒に楽しんでもらっている。リフト付きの車も所有しており気軽に外出ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じて、お金を使えるように支援している。また金銭を管理する事の大切さや買い物の楽しさを感じて頂けるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関付近に季節の花を植えたり金魚の入った水槽等が置いてある。リビングでは季節に応じて壁画や置物を変えている。 (外部評価) 季節の飾りが飾られていたり、家族が画いた絵等が掛けられており、利用者が落ち着いて生活できるよう環境が整えられている。共用スペースは清潔に保たれ、不快な臭い等はない。ゆったりとした穏やかな雰囲気づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツ等を設置しておりそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。また、配席なども工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き配置に関しても本人、家族と相談しながら行い居心地良く過ごせるように支援しているがまだまだである。 (外部評価) 居室は十分な広さが確保されベッドは備え付けてあるが、テレビやタンス、仏壇等の使いなれたものを自由に持ち込み、利用者の使い勝手よく配置されている。また、家族の写真やお気に入りの飾り等が飾られ、居心地よく過ごせるよう居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをするよう努めている。また、各居室には表札があり、本人の希望にて色分けした暖簾をかけ、わかるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105610
法人名	株式会社 アクト企画
事業所名	グループホーム我が家
所在地	松山市鷹子町705-2
自己評価作成日	H24年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○玄関に手づくりのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。 ○利用者と職員との関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。 ○昔の話を聞いたり、新聞について色んな話をしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。 ○毎年、遠足という事で、遠出をしている。昨年は、伊予市、中山町にて楽しく過ごしました。 ○家庭菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。 ○地域の踊りの先生との交流。 ○面会に来られた方からの繋がりでの交流の広がり。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の静かな環境の中にある事業所で、開設当時から町内会に加入し、回覧板や運営推進会議で地域の行事などの情報を得ている。近所の方とあいさつを交わしたり、みかんをもらう等の交流が行われている。利用者の思いや要望は、センター方式を活用し把握するよう努めている。利用者について気付いたこと等は職員間で話し合う機会を持ち情報を共有している。年2回の火災を想定した避難訓練を実施し、災害についての勉強会を行なう等、防災に対する意識を高めるように努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム我が家

(ユニット名)

ユニット2

記入者(管理者)

氏 名

中山 多希史

評価完了日

平成 24 年 2 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の住民の一員である事が実感できるような生活を支援します」という理念をつくっている。常に意識できるように皆の目の届く所、踊り場等に張っており、実践できるよう心がけている。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえ、管理者や職員が話し合って作成した理念を掲げている。理念については職員会で振り返りを行う等、日々実践するよう努めている。地域住民の一員として地域とのつながりを大切に考えている	事業所開設より6年が経過し、現在の理念については一定の達成度が感じられる。管理者を中心に職員全員が参画し、基本理念とケア理念の関連性を考慮しながら理念の見直し等を検討するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会に加入している。地域の文化祭や行事等に参加し地域の一員になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の方に来て頂き、教えてもらったり、舞踊等を披露して頂いたり、交流を深めている。しかし、日常的に地域との付き合いが出来ているかどうかとなるとまだまだである。 (外部評価) 町内会に加入し回覧板等から地域の情報を得ている。また、地域に住んでいる職員や運営推進会議に参加してくれている地域の方からも様々な情報を得ている。近所の方からみかんをもらったり、踊りの先生に来てもらう等、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々へ実践を通じて積み上げている知識を活かす場面が作れていないのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ケアの取り組みや現在の状況等を報告し、話し合い、 そこからの意見をサービスへ反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 地区民生委員や町内会長、地域包括支援センター職 員、家族代表者、利用者、職員等が参加し、概ね2か 月に1回開催されている。議事録は詳細に記録されて おり、意見交換等も活発に行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会等に参加した り他の研修会等にも参加している。他の担当者とは、 困ったとき等の対応を相談したりして協力関係を築く ように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参 加し、助言をしてもらったり、意見交換を行ってい る。また、地域包括支援センター主催のケアネットや グループホームの交流会等にも積極的に参加し、情報 交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はないが、ユニットを仕切るドアに暗証番 号式ロックがある。課題として、施錠のデメリット等 を十分に伝えていく必要がある。まだまだ、不十分。	
			(外部評価) ユニットの出入り口に暗証番号式のロックがかかるよ うになっている。ロックがあることで安心している家 族への身体拘束の説明が不十分であると管理者は感じ ており、今後の取組みを検討している。利用者に対 しては、見守りを行い外出ができるよう支援に努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に、心理的虐待や言葉の虐待等がないか話し合い、見過ごさないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度があるということについては職員で理解しているが、詳しい理解や活用に至っていないのが現状である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをもとに詳しく説明し、同意を得ている。表面以外の気になる事等も聞き、不安がないように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、運営推進会議等で聞けるようにしている。また、管理者や職員が面会時などに気軽に聞けるような関係作りを行っている。そして、それを出来る限り実現するようにしている。	
			(外部評価) 家族の代表者が運営推進会議に参加しており、意見や要望を言ってくれる。家族からの苦情については、職員間で話し合い結果を家族に伝えるようにしている。また、家族の面会時に意見や要望等を聞き取るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気作りをしている。また、定期的に管理者が全員の個人面談をして話等聞く機会を設けている。 (外部評価) 日々の業務の中で、意見や提案がよく出されている。必要に応じて管理者から代表者に伝えるような仕組みがある。また、管理者による個人面談が随時行われ、職員の思いや意向を把握し意見等を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員がやりがいを持って働けるように、特別休暇を設けたり、参加したい研修等があれば参加できるように職場環境・条件の整備に努めている。また、松山市勤労者福祉サービスに入会したり、勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員のケアを向上させる為に、参加したい研修等があれば参加できるようにしている。また、発表の機会を設ける事により学びの質を高めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会や地域包括支援センター、ケアプラン研究会などが主催する研修会や交流会に参加し、交流をはかる取り組みをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話を聞き、不安や求めている事等を受け止めるようにしている。また、スムーズに利用して頂くために、入居までに他の利用者さんとの交流等も出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と話し合い、不安や求めている事を把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話を聞き、必要なサービスへ繋ぐよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を人生の先輩として敬い色々な事を教えて頂くという思いを忘れないようにしている。また、雰囲気を大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で、喜怒哀楽を共にし、笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族のこだわり、苦しみ等も受け止められるよう心がけている。また、家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるよう報告している。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前利用していたデイサービスや、馴染みの場所等へ行けるように支援している。また、馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。馴染みの人に手紙を出したり、電話をかけたたりする工夫もしている。	
			(外部評価) 利用者が住んでいた自宅に行ったり、お墓参りに行ったり、なじみの場所に行く等の取組みをしている。また、入居の長い利用者同志が仲良くなったり、定期的に訪問してくれる美容師とも新しいなじみの関係になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。職員が利用者の関係を上手に取り持つ事により良好な関係作りが出来るように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者がいれば支援している。また、移り住む事があればケアの工夫や注意点等のノウハウは惜しみなく伝えるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や買い物等の希望に対応出来るように支援している。センター方式や職員会等で希望の想いの把握に努めている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れ、さらに工夫をしながら利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、職員は知り得た情報を気付きシートに記録し、職員会で話し合い共有するようにしている。利用者の希望に応じて花見や買い物等にも出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の面会時に話を聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃のコミュニケーションに努め、バイタル、入浴時の観察等で現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。 (外部評価) 居室担当の職員を中心に職員間で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。介護計画に沿って支援した内容は、分かりやすく青色で経過記録に記入している。それをもとに月1回の職員会で評価、見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアのアプローチ、結果、気づき、工夫についてありのままの言葉で上手くいかなかった場合も記述・記録として残し、表現しきれない微妙な言葉や行動については、申し送りで情報の共有、後のケアにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物や通院対応等本人や家族のその時々要望に応えられるよう、柔軟に対応している。囲碁のボランティアの方に来てもらったり、多機能になるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアによる踊り、演奏、囲碁等や、中学生職場体験学習の受け入れ、地域の公民館での行事や運動会等に参加し、豊かな暮らしになるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の意向にそえられるように支援している。	
			(外部評価) 家族や利用者が希望する医療機関に家族が付き添って 受診してもらっているが、家族の付き添いが困難な時 には管理者や職員が対応をしている。受診の結果につ いては、家族と職員で情報共有をしている。また、協 力医や歯科医の往診があり、非常勤の看護師も配置し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日バイタルチェックをし記録に残し体調変化、異常に気付い たら早い段階で医療機関に相談、受診し重症化を予防 に努めている。また、医療連携している看護師にも報 告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリー と共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしてい る。病院にも定期的に顔を出し、安心していただける ようにしている。また、早期退院に向けて病院関係者 と話し合い調整してる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医と連携を取り、今後の終末期に向けての 起こり得ること等を家族等と共有している。	
			(外部評価) 家族の理解や支援体制等の条件が整えばターミナルケ アを実施するよう方針を定めている。家族や職員、関 係者で話し合い連携を取りながらターミナルケアを 行った事例がある。重度化については、家族との話し 合いを随時しながら対応するよう検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作っている。定期的に事故発生時などの対応を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練等を行っている。運営推進会議等でもテーマにし、地域の方とどういう連携をとるのか話し合っている。 (外部評価) 年2回の火災を想定した避難訓練を実施している。車いすを使用している利用者が多いため迅速に避難ができるよう、避難経路等の検討をしている。地震災害についての勉強会を行ない、防災に対する意識を高めるようにしている。	運営推進会議で災害についての議題も出されていることから、地震災害に対する非難訓練を地域住民の協力を得ながら行えるよう検討する等、さらなる取組みに期待したい。また、可能な範囲で備蓄を行ったり、災害対策グッズを常備する等の対応を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意するように努めている。定期的に配慮した声かけになっているかなどの確認等をするようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対して、優しく適切に声かけ等の対応ができるよう職員同志で注意し合ったり、職員会で注意を促している。個人情報についても適切に管理するよう努めている。また、トイレや入浴時は人目に触れないよう細心の注意を払い介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出を汲み取る努力をしている。納得した生活を送って頂く為、自己決定の場面を作り支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせつつ、希望に沿った支援が出来るように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。ご自分で洋服を決めていただいたりしている。理美容も本人の望む店に行けるように支援している。お化粧を希望される方には、お手伝いする事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りに何かしら関われるように支援しているが不十分である。食事作りに関わったり、後片付けと一緒にする事により役割や楽しみが共有できるように努めている。	
			(外部評価) 職員が献立を立て、調理を行なっている。食事介助の必要な利用者はほとんどおらず、職員と一緒に会話をしながら楽しく食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) おかずを刻んだり、魚をほぐしたりご飯の量や、水分量等、各々に合わせた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者個々の能力・習慣に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄のリズムを把握している。また、利用者の状態によりリハビリパンツやパッドで対応したり、表情や時間を見ながら誘導する等、排泄で失敗がないよう支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、青汁を飲んで頂いたり、水分を摂る様にしたりと便秘予防・自然排便が出来るように支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。	
			(外部評価) 週に2～3回、入浴ができるよう支援をしている。時間は特に決めておらず、希望に合わせて利用者のペースで入浴ができるよう実施している。入浴の苦手な利用者については、声かけのタイミング等を変えながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて安心したり休息したり眠れるようにしている。また、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。また、誤薬防止の為、声に出して名前の確認を行うようにしている。本人の状態により服薬調整等も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る限りの手伝い等、進んでして下さるよう声かけの支援を行っている。役に立ったと喜びを感じて頂けるように心がけている。台所仕事が好きな人、歌を歌うことが好きな人等その人にあった支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿って、買い物や散歩等戸外に出かけられるよう柔軟に対応するように努めている。以前利用していた施設などを訪れたりし、満足していただけるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて近くのお寺にお参りに行ったり、日常的に近所を散歩している。また、花見や遠足等を定期的に計画し家族にも参加してもらい一緒に楽しんでもらっている。リフト付きの車も所有しており気軽に外出ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じて、お金を使えるように支援している。また金銭を管理する事の大切さや買い物の楽しさを感じて頂けるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真等で居心地の良い空間を作っている。居室の家具や置物等にもその人らしくなるように工夫している。 (外部評価) 季節の飾りが飾られていたり、家族が画いた絵等が掛けられており、利用者が落ち着いて生活できるよう環境が整えられている。共用スペースは清潔に保たれ、不快な臭い等はない。ゆったりとした穏やかな雰囲気づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツ等を設置しておりそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。また、配席なども工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き配置に関しても本人、家族と相談しながら行い居心地良く過ごせるように支援しているがまだまだである。 (外部評価) 居室は十分な広さが確保されベッドは備え付けてあるが、テレビやタンス、仏壇等の使いなれたものを自由に持ち込み、利用者の使い勝手よく配置されている。また、家族の写真やお気に入りの飾り等が飾られ、居心地よく過ごせるよう居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをするよう努めている。また、各居室には表札があり、本人の希望にて色分けした暖簾をかけ、わかるように工夫している。	